

留学報告書 ～私の当たり前を大きく変えた留学～

アルゴマ大学
国際文化学部生（中期延長）

私はカナダのオンタリオ州にあるアルゴマ大学に10カ月間、留学しました。小さい頃から家族で海外旅行に行くことがよくあった私は、空港や機内で出会う流暢に英語を話すスタッフの方に憧れの念を持っていました。なぜなら、私に優しく日本語で話しかけてくださったすぐ後、外国の方と英語で楽しく会話している様子を目の当たりにしたからです。その姿に圧倒され、私もあの方のように様々な国の人と物怖じせず、笑顔で英語を話せるようになりたいと思いました。留学前の私は、もちろん留学を通して自分の視野を広げ、人間として成長したいという思いもありましたが、それだけではなく、あの憧れの女性に少しでも近づくことを目標にこの留学を決意しました。

ついに日本を旅立ちカナダへ出発する日となり、自分の知らない土地へ行く期待感とともに、一人で飛行機に乗ったことがなかったことや英語を話すことに自信がなかった私はすぐに友達ができるだろうかと不安でいっぱいでした。カナダの空港でビザの申請をする際、そこには長蛇の列ができており手続きが長引いたことで、乗る予定だった飛行機に間に合わなかったことや、やっとのことで留学先に着いたのは真夜中で、寮のシーツも布団もないベッドの上で眠りに落ちたのを今でも覚えています。これは自分の想像していたような留學生活の始まりではありませんでしたが、ここで私の当たり前を変えるようなたかさんの経験を積むことができたのは間違いありません。

ESLの授業が始まり、クラスメイトには様々な国の学生が在籍していました。授業中は静かな日本人とは裏腹に自分から率先して先生に質問する姿や、発言するクラスメイトの姿はとても新鮮で羨ましかったです。なぜなら、先生の言っている英語を聞き取るのさえ必死だった私は、授業の意図を汲み取れずに変なことを言って、クラスの妨げになるのではないかと、うまく英語を伝えられず周りから馬鹿にされるのではないかと怖かったからです。しかし、海外から来たクラスメイトにとっては至って普通のこと、私の育ってきた日本での価値観がそう思わせているのだと痛感しました。私はこの価値観を変えたいと思い、授業ではなるべく前の方に座り、先生の英語を一生懸命聞き取りよう努力した結果、自分から先生の話に意見することやみんなで討論するときも、みんなが違う考え方を持っていて当たり前で、積極的に自分の思っていることを発言することが恥ずかしいことではないということ強く感じるようになりました。他にも、秋学期の

Speaking/Listeningというクラスの成績は私の中で一番低かった77というスコアだったにも関わらず、春学期のOral Presentation Skillsというクラスでは最終的に97というスコアをもらうことができ、みんなの前に立って話すことに対する抵抗感はなくなり、自信を持って話せるようになったことは私の中でとても大きな自信につながりました。

また、ESLの友達だけではなく寮の友達とも親しくなりたと思った私は、どう思われるかと不安になりながらも自分からカナダ人の友達に連絡を取ると、快く私を受け入れ輪の中に入れてもらえたのです。自分から動かなければ何も始まらない留學生活の中でこの一歩を踏み出したことは私にとってとても大きく、この日を境に私の留學生活は一変しました。なぜなら、その友達を通じて、日本で学生生活を送っていたら出会えなかったような価値観や考え方の違う友達を作ることができたからです。例えば、自分の健康や動物愛護の気持ちからベジタリアンになった友達や、私と同じ年の友達は同じ年と思えないほど大人びており既に婚約していたり、とても陽気で日本語を熱心に勉強しているレズビアンなどの友達など、本当にそれぞれ違う価値観を持っています。また、みんな違うことに対して否定したり嫌ったりするのではなく相手の考えを受け入れ合う姿勢は私にとっても居心地のいい空間でした。なので、毎週末、友達の家が集まって夕ご飯を一緒に食べ、話してい

るだけでもとても楽しく刺激的でした。もちろん出会った頃はまだみんなと馴染めず、みんなと同じ空間にいるにも関わらず、ESLの先生とは違ってネイティブの早い会話についていくことができずに、一言も話さずに帰る日もありました。その夜は自分の部屋で悔しくて泣いていたことも何度もありましたが、優しい友達のおかげで打ち解けてみんなと笑い合い、会話に交じって話すことができたときは本当に本当にうれしかったです。みんなと打つ解け合うきっかけとなったのはボードゲームで、夕食を食べた後は夜遅くまでみんなよく遊んでいました。

私はカナダ人の友達に連れられボードゲームクラブに参加したり、自分の特技であるダンスを踊りたいと思いイラク人の学生がやっているベリーダンスクラブに参加していました。ベリーダンスクラブでは大学が開催するイベントで発表するため、自分たちで曲を選び、振り付けを作って一つの作品を完成させました。その過程では、意見がぶつかることや思うようにいかないことも多々ありましたが、この作品を成功させたいという同じ気持ちで練習に励むことで、無事に完成し踊り終えることができました。一つのことを成し遂げたチームメイトとは絆が深まり、コロナウイルスの影響で練習ができなくなってしまってもオンラインでやるなど本当に楽しい時間を過ごすことができました。また、コロナウイルスの影響で、寮での友達に頻繁に会うことができなくなった寮生活にもどかしさを感じた私は寮からホームステイに変更できないかとお願いをし、二日後には新しいホームステイでの生活が始まりました。ホストファミリーにはとても良くしていただき、人生の先輩として生きていく上で大切にしていることやカナダの家庭と日本の家庭の違う点、その時ニュースになっていた黒人差別についてもお互いの思っていることを語り合いました。日本で生まれ育った私にとっては私の常識だと思っていることがカナダでは通用しなかったり、逆にそれが日本人の良いところであったりと、カナダで過ごしていると日本を客観的に見る機会が増え、私は日本のことについてこんなにも知らなかったのかと驚くことばかりです。

留学中には、同じように留学している日本人とどのように関わったら良いのか分からなくなったり、カフェテリアやレストランが閉まってしまう自分で料理をしなければいけなくなったり、英語の話せない日本から来た友達とアメリカに旅行に行ったりと、たくさんの困難がありました。自分自身で乗り越えてきたこの経験は私のこれからの人生に活かされていくと信じています。これからも自分の理想の女性像を追い求めていきたいです。私の思い出が詰まった、自然豊かな第二の故郷であるこの地にまたいつか戻ってきたいと思っています。



寮の友達



ホストファミリーとサイクリング



ナイジェリア人の友達と釣りへ